

コニカミノルタ東海地区3サイト 環境・社会報告書 2011



豊川サイト



瑞穂サイト



三河サイト



KONICA MINOLTA

1. ご挨拶

平素は、コニカミノルタグループ東海地区3サイトの活動にご協力を賜り、誠にありがとうございます。

私どもは、地域の皆様を始め、多くのステークホルダーの方々にサイト内の活動をご理解頂くため、主要サイトにおきまして「環境・社会報告書」を、毎年発行しております。

本年度も、東海地区3サイトの事業内容や省エネへの取り組み、環境活動とその成果、環境データの公開、安全防災活動、地域社会活動などを紹介するため、「環境・社会報告書 2011」を発行させていただきました。

多くの皆様にご一読頂き、私どものサイト内の活動をご理解頂ければ、幸いです。

これからもコニカミノルタグループは公正・透明な企業活動を行い、環境に対する取り組みをご理解頂くとともに、皆様からの率直なご意見を謙虚に受け止め、サイト内の活動に反映させていただきます。

今後とも、皆様からのご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

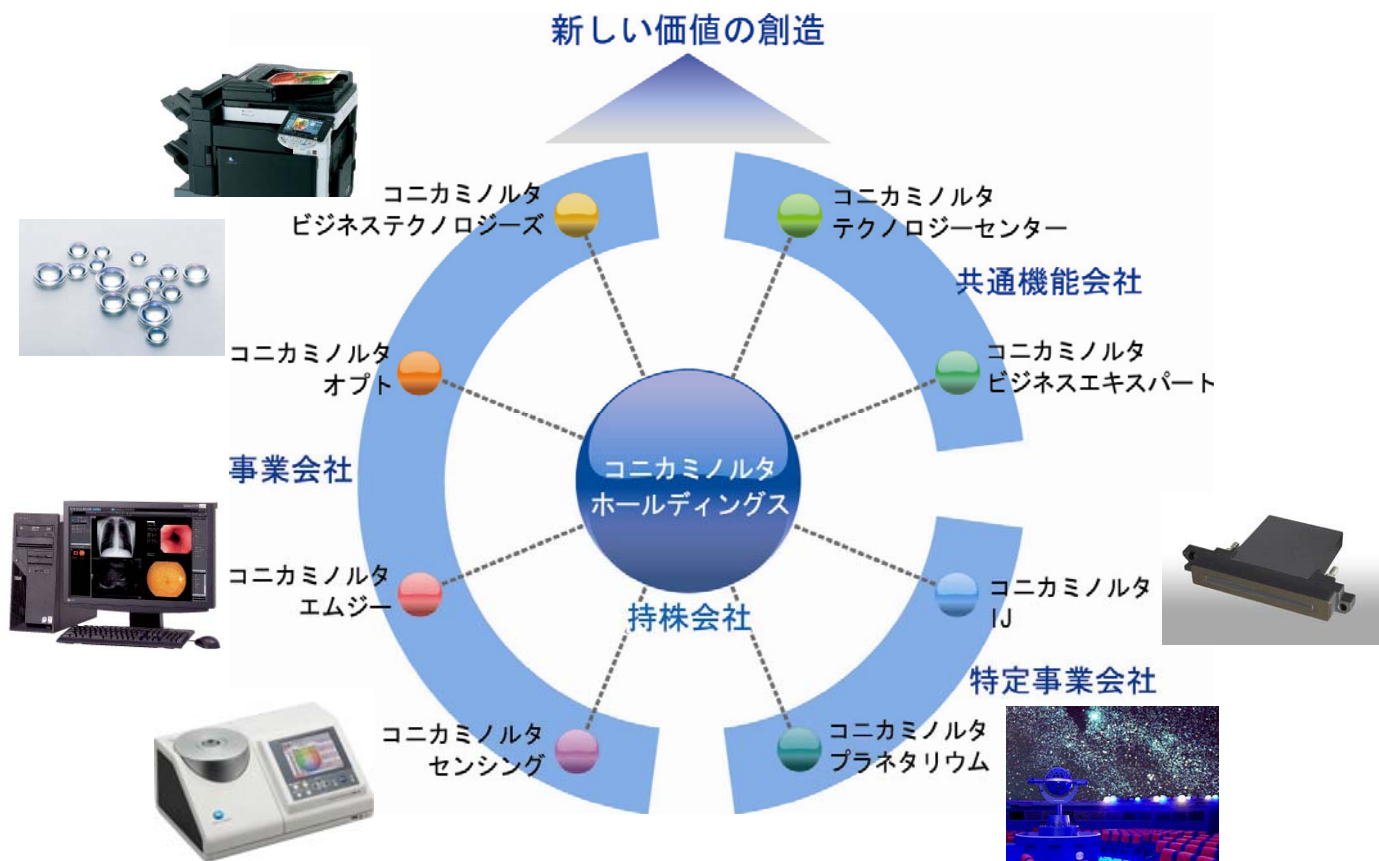
コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社
経営統括部 東海エリアリーダー

河 口 豊

【目次】	ページ
1. ご挨拶	1
2. コニカミノルタグループのご紹介	2
3. 「エコビジョン 2050」と「中期環境計画 2015」	3
4. 「中期環境計画 2015」の2010年度の進捗状況	4
5. サイト在籍会社ご紹介	5
(1)コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社	5
(2)コニカミノルタプラネタリウム株式会社	6
6. サイト概要	7
7. 各サイトの環境負荷概要	8
8. 環境活動	9
9. 安全・防災活動	15
10. 地域交流	18
11. 用語の解説	21

2. コニカミノルタグループのご紹介

コニカミノルタグループは、持株会社であるコニカミノルタホールディングス株式会社のもと、事業ごとに分社した事業会社と共通機能会社によって構成される企業グループです。これまで培ってきた材料、光学、微細加工、画像という4つのコア技術をもとに、世界各国のお客様にさまざまな製品やサービスを提供しています。今後も、経営理念である「新しい価値の創造」を探究し、イノベーションを続けてまいります。



持株会社

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

コニカミノルタグループの経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査・管理・統括

本社所在地 東京都千代田区丸の内 1-6-1
 代表者 代表執行役社長 松崎 正年
 設立 1936年(昭和11年)12月22日
 資本金 37,519百万円
 決算期 3月31日

共通機能会社

グループ横断的な機能を集約した会社

コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社

グループ内の研究・技術開発、商品デザインを受託、知的財産の管理運営などのサービス提供

コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

グループ内へのエンジニアリング、ロジスティクス、環境・安全、その他各種シェアードサービスの提供

事業会社

事業別に、業務執行に必要な権限を委譲された会社

コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社

複合機(MFP)、プリンター、印刷用機器などの製造・販売、ならびにそれらの関連ソリューションサービス

コニカミノルタ オプト株式会社

光学デバイス(ピックアップレンズなど)、電子材料(TACフィルムなど)の製造・販売

コニカミノルタ エムジー株式会社

ヘルスケア用機器、材料などの製造・販売

コニカミノルタ センシング株式会社

産業用、ヘルスケア用計測機器などの製造・販売

特定事業会社

持株会社の支援を受けて育成を図る事業会社

コニカミノルタ IJ株式会社

産業用インクジェットヘッド、インク、テキスタイルプリンターなどの製造・販売

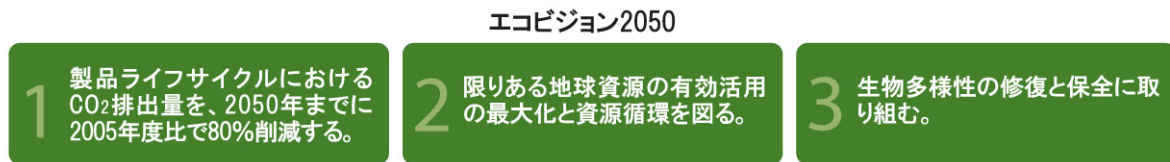
コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

プラネタリウム機器およびコンテンツなどの製造・販売、プラネタリウム建設ならびに運営サービス

3. 「エコビジョン2050」と「中期環境計画2015」

コニカミノルタは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たすために、2050年までに実現すべき姿を示した長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定しました。

また、「エコビジョン2050」の実現に向けたマイルストーンとして、2015年度をターゲットとする「中期環境計画2015」を策定しています。この計画では、「地球温暖化防止」「循環型社会への対応」「化学物質リスクの低減」「生物多様性への対応」の4テーマについて、具体的な取り組みと達成すべき目標を掲げています。



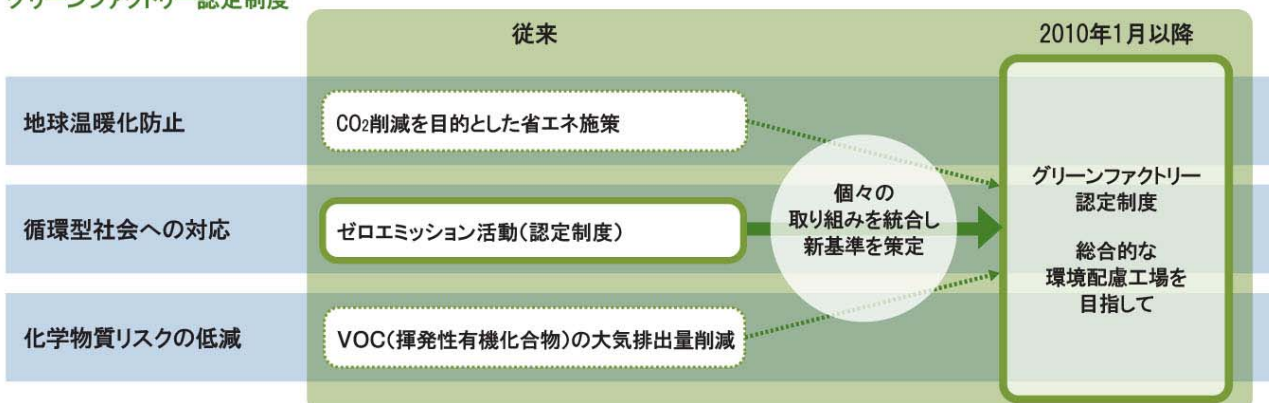
中期環境計画2015

テーマ	主な2015年度目標(基準年:2005年度)
地球温暖化防止	製品ライフサイクルにおけるCO ₂ 排出量：20%削減 ●製品使用に起因するCO ₂ 排出量：60%削減 ●生産活動に起因するCO ₂ 排出量：10%削減(売上高原単位※1) ●物流活動に起因するCO ₂ 排出量：30%削減(売上高原単位) ●販売・サービスに起因するCO ₂ 排出量：50%削減(売上高原単位)
循環型社会への対応	石油由来資源の使用量：20%削減(売上高原単位) 包装材料の使用量：25%削減(売上高原単位) 生産活動からの外部排出物量※2：50%削減(売上高原単位) 各地域における使用済み製品の再資源化体制の構築、再資源化率90%以上
化学物質リスクの低減	サプライチェーン※3全体を含めた化学物質の厳格管理を維持 VOC(揮発性有機化合物)の大気排出量：75%削減(環境影響度指数※4)
生物多様性への対応	生物多様性の修復と保全に貢献する

- ※1 売上高原単位：売上高あたりの環境負荷量。
- ※2 外部排出物量：生産活動にともなって発生する総排出物量から内部リサイクル量と減量化量を引いた、コニカミノルタの拠点外に排出される量。
- ※3 サプライチェーン：ここでは、上流の素材会社から部品加工会社を経て、コニカミノルタに納品されるまでのルートを指します。
- ※4 環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数(人健康影響、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数。

さらに、この計画を生産の観点から推進する施策として、2010年1月、生産拠点の環境活動を総合評価する独自の制度「グリーンファクトリー認定制度」の運用を開始しました。

グリーンファクトリー認定制度



4. 「中期環境計画2015」の2010年度の進捗状況

(1) 地球温暖化防止

製品ライフサイクル CO₂ 排出量を 2005 年度比で、
 目標：43.5% 削減 (921 千 t-CO₂)
 実績：45.5% 削減 (888 千 t-CO₂)

製品使用時の CO₂ 排出量については、業界トップクラスの低消費電力を実現したモノクロ複合機などを市場に投入し、目標値を達成しました。また、生産活動では、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、エネルギー生産効率を高め、CO₂ 排出量削減を着実に進めています。しかし、物流活動では、需要変動への対応などともなう航空機輸送の増加が影響し、目標を達成できませんでした。

製品ライフサイクルCO₂排出量



(2) 循環型社会への対応

生産拠点からの外部排出物量(売上高原単位)を 2005 年度比で、
 目標：9.9% 増加 (2.7 t/億円)
 実績：15.9% 増加 (2.9 t/億円)

生産活動からの外部排出物量の削減に向け、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、生産効率向上や内部リサイクルを推進しています。しかし、生産時の排出物負荷が大きい製品の増産や、新工場立ち上げにともなう突発的な廃棄発生などにより、グループ全体では目標値を達成することができませんでした。

生産活動からの外部排出物量



(3) 化学物質リスクの低減

VOCの大気排出量(環境影響度指数)を 2005 年度比で、
 目標：71% 削減
 実績：73% 削減

VOC(揮発性有機化合物)の大気への排出量は、景気回復による生産増のため、前年度比で増加しましたが、年度目標を達成することができました。

環境影響度指数：VOC 排出量に有害性係数(人健康影響度、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数

VOC大気排出総量(リスク換算)



(4) 生物多様性への対応

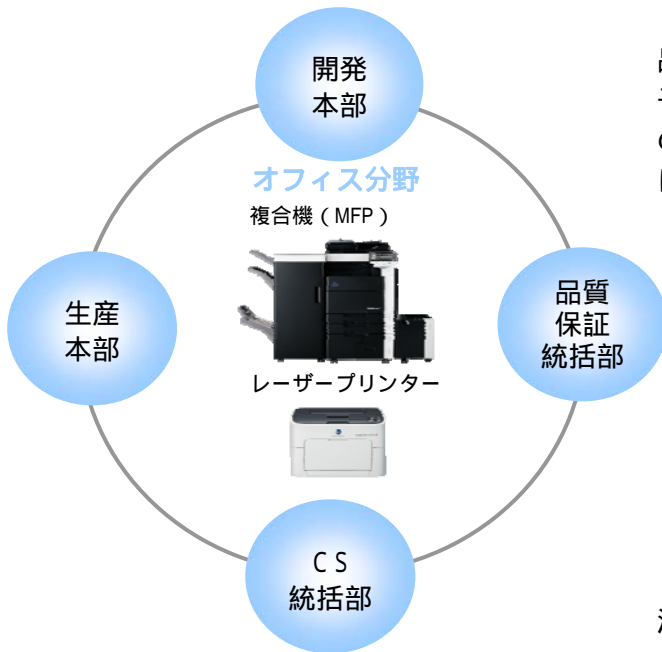
「グリーンファクトリー認定制度」の運用の一環として、生物多様性への対応に取り組んでいます。水資源や排水への配慮、工場植栽の適正管理について対応指針を策定し、2011年4月から運用を開始しました。

生物多様性対応指針(抜粋)

区分	チェック項目
水資源への配慮	使用する水について、総取水量の削減目標を設定し、削減施策を実施していること。
排水への配慮	公共用水域へ排出する排水が、水生生物の生息環境など生態系へ及ぼす影響を確認できていること。
工場植栽の適正管理	工場敷地内で、生態系に悪影響を及ぼすおそれ強い外来侵入種の植栽、種子の播種を行っていないこと。

5. サイト在籍会社ご紹介

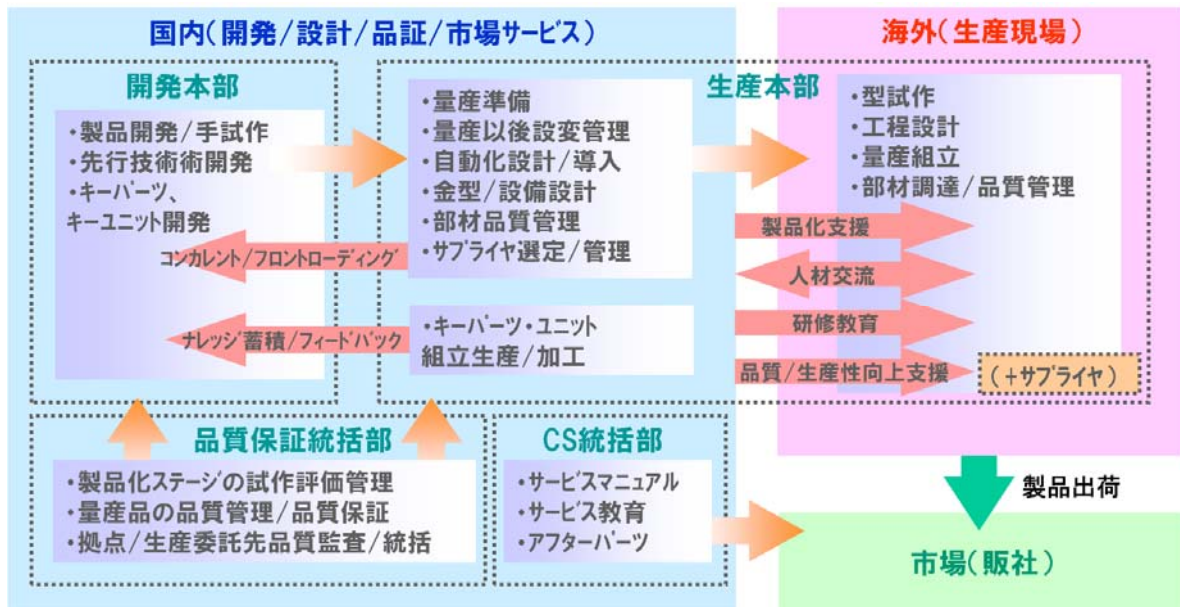
(1) コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社



東海地区では、オフィス分野を中心とした開発、生産、品質保証、カスタマーサービス機能の中核を担い、八王子、中国関連拠点とも連携し、お客様に向けたオフィスの最適ソリューションを実現する商品とサービスの提供に貢献しています。



国内では、開発設計/製品化/品質保証機能を統括し、海外生産現場での製品立上げとQCDの確実な達成に向け、連携力を強化しています。

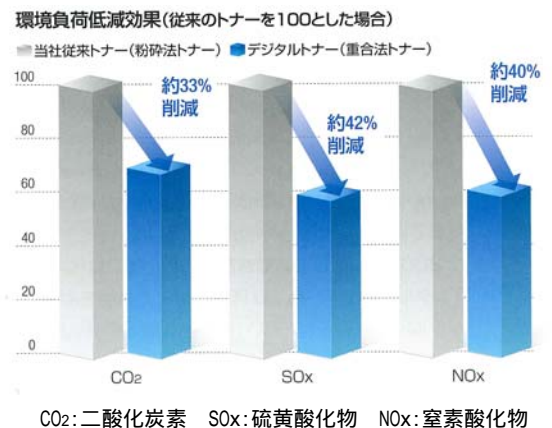


オフィスにおけるお客様の利便性と環境負荷低減への貢献

お客様の求める品質、環境性能、コスト、それらすべての要求に応えていくことが、私たちの責任です。

私たちが提供する複合機 (MFP) やプリンターに搭載される重合法トナーは、優れた高画質と環境性能を兼ね備え、オフィスの省エネ・省資源に貢献しています。

また、感光体の耐用年数を延ばすための取り組み、トナーループ機構による廃棄トナー発生ゼロ化、トナーボトルへの再生プラスチック利用など、環境負荷低減への取り組みを続けています。



(2) コニカミノルタプラネタリウム株式会社

美しい星空と臨場感豊かな映像をお届けする

多くの方々に美しい星空や臨場感あふれる映像体験をお届けしたい。そんな想いのもと、投映機器の開発・製造から番組制作、運営までを手がけるプラネタリウムの総合メーカーとして、日本をはじめ、世界市場で事業を展開しています。



統合型プラネタリウム

プラネタリウムの最先端を探求する光学技術とデジタル技術の融合による、プラネタリウムシステムは、圧倒的な臨場感が高く評価され、国内外で同システムの導入が進められています。2012年には、直営2号館のコニカミノルタプラネタリウム“天空” in 東京スカイツリータウンがオープンします。



コニカミノルタプラネタリウム“満天”
in Sunshine City



コニカミノルタプラネタリウム“天空”
in 東京スカイツリータウン

最新デジタルプラネタリウムシステムは、見る人の心に響く美しい星空を再現することに加え、従来の光学式プラネタリウムでは再現しきれなかった三次元宇宙空間や様々な天文現象を、時間と空間を超えて動きのあるダイナミックなカラー高精密映像で再現します。



6. サイト概要

(1) 豊川サイト



サイト名 : **コニカミノルタ豊川サイト**
所在地 : 〒442-8558
愛知県豊川市金屋西町 1-8
設立 : 1990 年
在籍人員 : 320 名(2011 年 3 月 1 日現在)
敷地面積 : 13,000 m²

サイト在籍会社

- ・コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社
- ・コニカミノルタプラネタリウム株式会社
- ・コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社
- ・コニカミノルタ総合サービス株式会社
- ・コニカミノルタエンジニアリング株式会社

(2) 瑞穂サイト



サイト名 : **コニカミノルタ瑞穂サイト**
所在地 : 〒442-8503
愛知県豊川市穂ノ原 3-22-1
設立 : 1980 年
在籍人員 : 1,250 名(2011 年 3 月 1 日現在)
敷地面積 : 64,000 m²

サイト在籍会社

- ・コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社
- ・コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社
- ・コニカミノルタ情報システム株式会社
- ・コニカミノルタ総合サービス株式会社
- ・コニカミノルタエンジニアリング株式会社

(3) 三河サイト



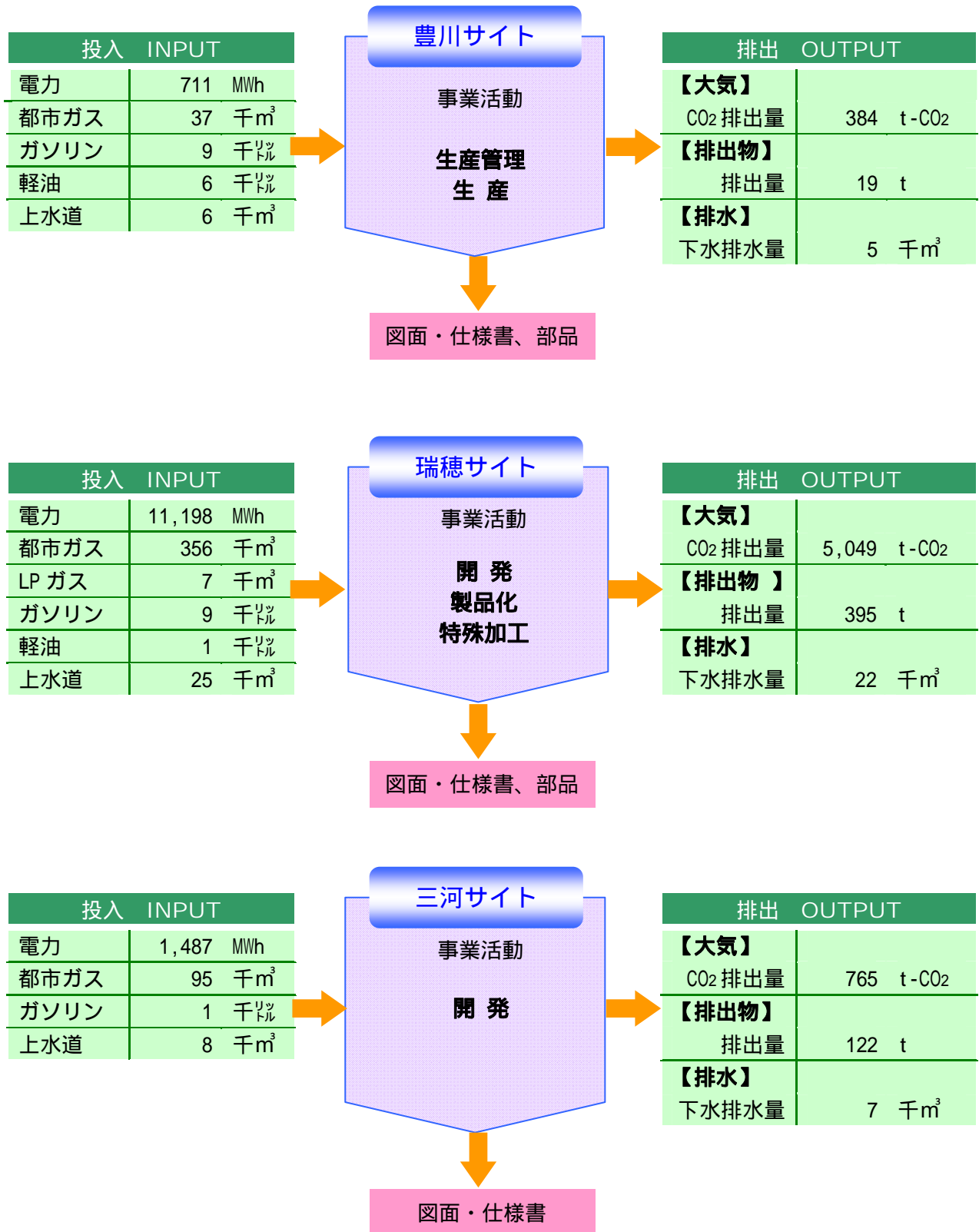
サイト名 : **コニカミノルタ三河サイト**
所在地 : 〒442-8585
愛知県豊川市八幡町東赤土 2
設立 : 1965 年
在籍人員 : 410 名(2011 年 3 月 1 日現在)
敷地面積 : 68,000 m²

サイト在籍会社

- ・コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社
- ・コニカミノルタソフトウェア研究所株式会社
- ・コニカミノルタ総合サービス株式会社
- ・コニカミノルタエンジニアリング株式会社

7. 各サイトの環境負荷概要

2010年度の環境負荷の概要は、以下の通りです。



電力は係数 0.378t-CO₂/MWh、都市ガスは係数 2.11t-CO₂/千 m^3 を使用して CO₂ 換算しています。
排出物は、産業廃棄物、事業系一般廃棄物、有価売却物を合わせた外部排出物量です。

8 . 環境活動

(1) CO₂ (二酸化炭素) 排出量の削減

東海地区 3 サイトでは、2005 年度に愛知県条例に定める「地球温暖化対策計画書」を提出して以降、CO₂ 削減に取り組んできました。2007 年度には省エネ委員会(のちに省エネ推進委員会に改称)を立ち上げ、以降、以下のような諸施策を実施して削減を進めています。

- ・ 省エネ設備の設置や更新 (LED 照明など)
- ・ 設備の適切な運用 (連休における徹底的な不要電力のカットなど)

推進体制

2010 年 4 月 1 日より施行された改正省エネ法に対応し、製造、オフィス、ユーティリティの 3 つの分科会を設けて、総合的に CO₂ 排出削減を進めています。

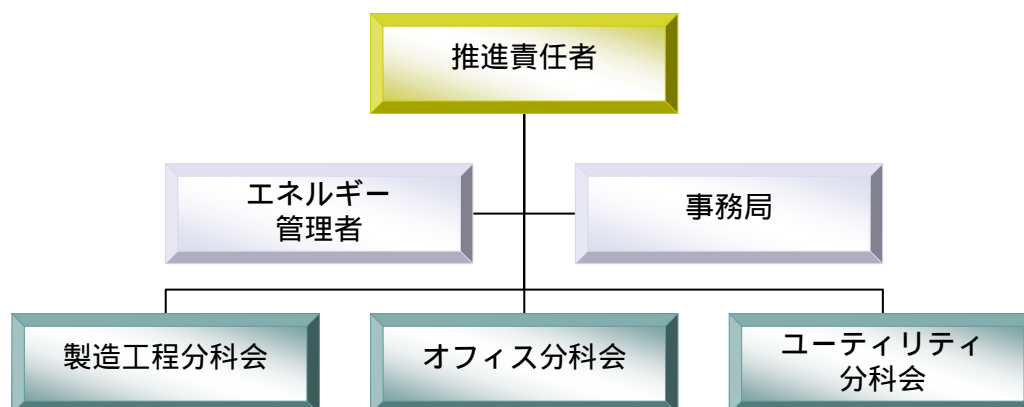


図 8-1 省エネ推進体制

CO₂ 排出量の推移

2010 年度は、夏の暑さ冬の寒さが例年より厳しかったため、空調負荷が増加しました。

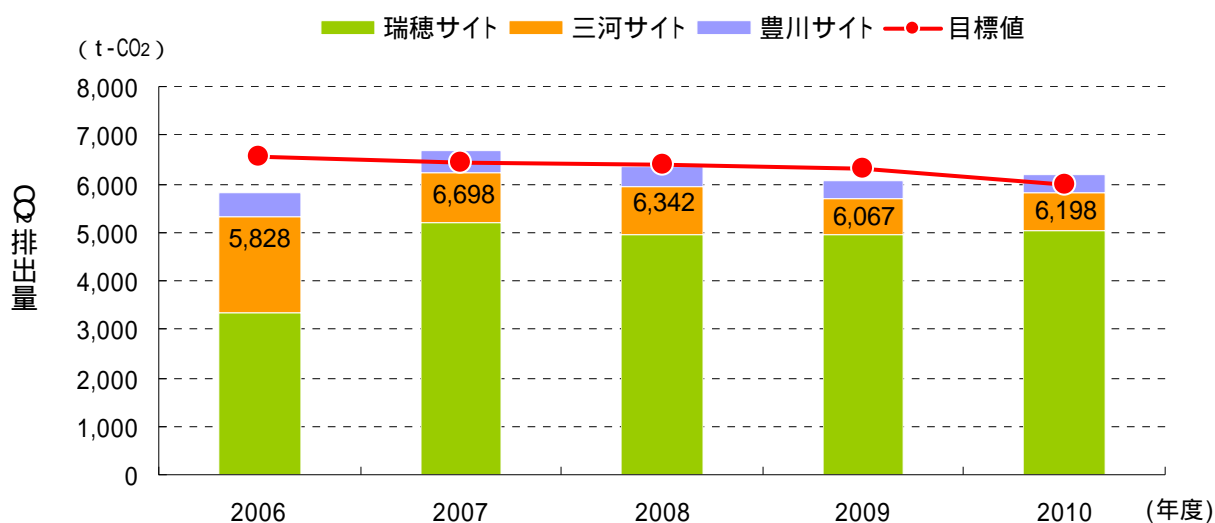


図 8-2 CO₂ 排出量の推移

2011 年度夏は、最大電力抑制のため様々な施策を実施し削減に努めました。

オフィス系の CO₂ 排出量の推移

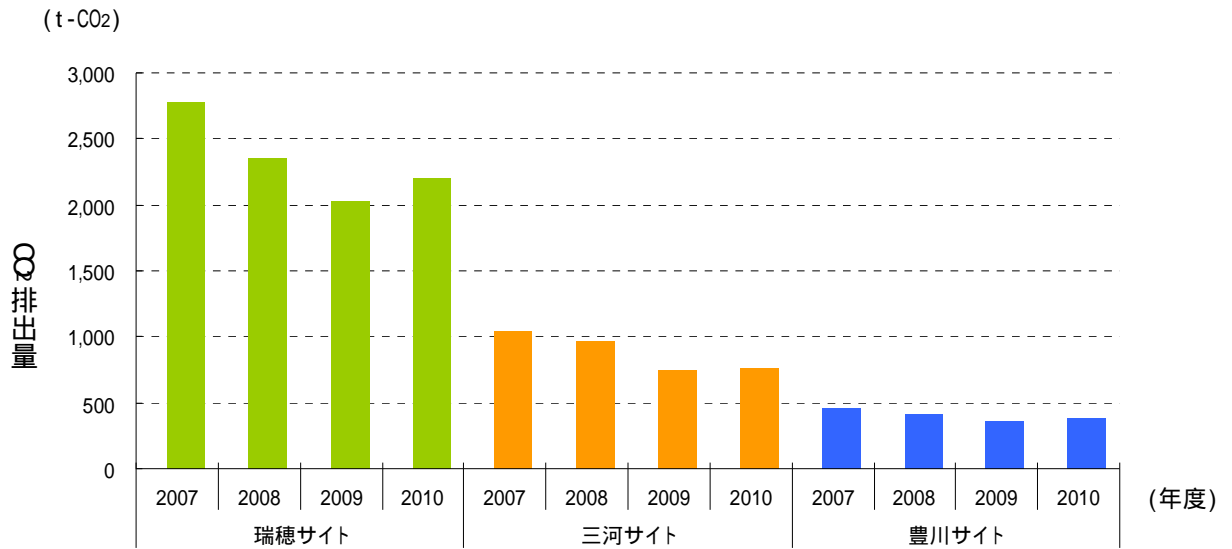


図 8-3 オフィス系 CO₂ 排出量の推移

表 8-1

オフィス系		: 2011 年度から新たに行った施策
推進活動	省エネ推進委員会 (5 回)	
	省エネパトロール (6 回)	写真 8-1
削減活動	昼休みの一斉消灯・就業時のこまめな消灯	
	長期連休の省エネ活動 (コンセントから抜くの周知徹底)	
	全体空調を 20 時停止	
	個別空調機の室温管理の徹底	
	照明スイッチの照明場所のマップ化	
	恒温恒湿槽へ省エネモードを導入	
	パソコン/複合機の省エネモード設定	
	オフィスの照度基準を 400lux に改訂し、さらなる蛍光灯の間引き	
	個別空調のウィークリータイマー設定	
	夏期はトイレ便座への通電停止	
	豊川市主催夏至ライトダウン、七夕ライトダウンへの参加	
	パソコンの輝度をセーブ	
不快指数による空調管理	写真 8-2	
教育啓蒙	省エネアイテムを社内掲示	図 8-4 (P11)
	省エネ良い事例集の掲示	図 8-5 (P11)



写真 8-1 省エネパトロール



写真 8-2 不快指数表

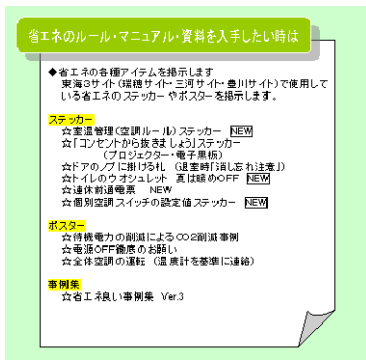


図 8-4 省エネアイテムの掲示



図 8-5 省エネ良い事例集

生産系

2010 年度から、オフィスだけでなく生産工程にも省エネ活動を広げ、関係部門が協力して省エネ施策の抽出、費用対効果、実施可能性（品質・生産性への影響）の検討を進めています。

ユーティリティ

設備の改修・更新に合わせて省エネ性の高い機器を選定しています。



写真 8-3 トランス(小型化)

表 8-2

建物・設備・インフラ			
瑞穂サイト	断熱性の向上	2007	3号棟屋上東半分に断熱塗装
		2009	3号棟南西壁面に断熱塗装
		2009	1号棟屋上に遮熱性シートを採用
		2010	3号棟屋上西半分に断熱塗装
		2011	1号棟壁に断熱塗装 (写真 8-4)
	照明設備の更新	2008	オフィスの蛍光灯を省エネタイプに更新
		2011	水銀灯を LED 照明に更新 (写真 8-5)
		2009	生産工程のコンプレッサー 3台を2台に削減
	全体空調の改善	2007	送風機にインバータ制御を導入
		2008	外気冷房装置の導入
2011		サーバールームの空調機を省エネタイプに更新	
2011		恒温恒湿室を省エネタイプに更新	
三河サイト	断熱性の向上	2008	第1管理棟窓に遮熱フィルムを貼付け
	照明設備の更新	2008	省エネタイプに更新
	全体空調の改善	2009	第2管理棟外気冷房装置の導入
	三河西地区	2008	変圧器の集約・削減
豊川サイト	断熱性の向上	2011	窓に遮熱フィルムを貼付け



写真 8-4 1号棟壁の断熱塗装工事



写真 8-5 水銀灯から LED 照明灯へ

(2) 循環型社会への対応

排出物量の年度推移

排出物削減活動の継続により、2006年度から排出物量は順調に減少し、2010年度は2006年度比で50%削減しております。

2007年度にサイト間の大幅な人員移動を実施しました。それ以降、排出物量に占める割合が、三河サイトは減少し、瑞穂サイトでは増加しています。

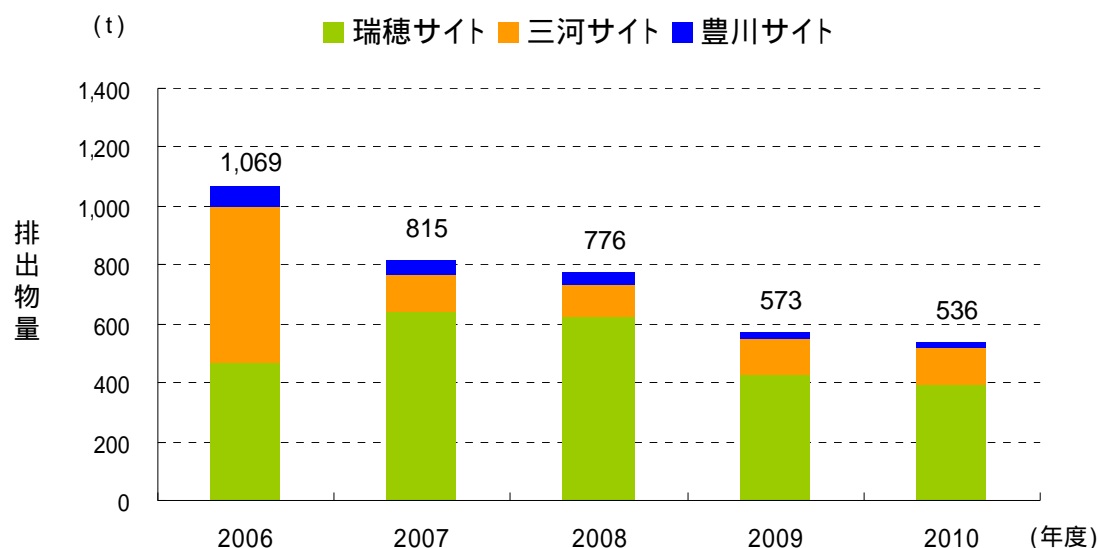


図 8-6 排出物量の推移

排出物費用の年度推移

2009年度の有価物(売却)金額の前年度からの大幅な減少は、有価物の金属や紙類の価格の暴落によるものです。

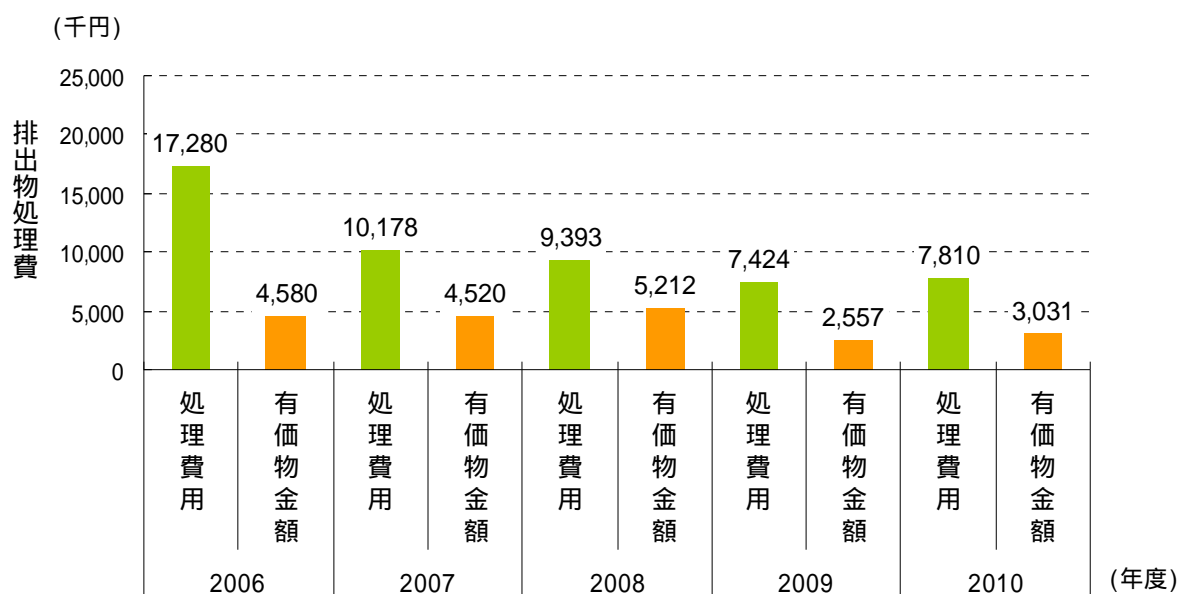


図 8-7 排出物処理費用の推移

(3) 土壌・地下水汚染への取り組み

三河サイト西地区では、豊川市の区画整理事業のため、2008年1月より自主的な土壌調査を行いました。その結果、敷地南西部に鉛、ヒ素による土壌汚染、また南東エリア北部域にトリクロロエチレンによる地下水汚染、同じく南東エリア北部域の表土の限られた部分にフッ素汚染を確認しました。そのため、拡散防止の応急措置を行うと同時に、2008年8月に行政へ報告を行いました。

敷地南西部の鉛、ヒ素による汚染土壌は、2009年3月に浄化を完了しました。

南東エリアのトリクロロエチレンによる汚染については、2010年度、汚染源の土壌の掘削除去を行いました。また、地下水汚染に対しては、地下水浄化を継続しており、地下水定期観測によりこれらの対策効果を確認中です。

フッ素による土壌汚染については、一部を掘削により除去し、残存部分の拡散防止を継続中です。

なお、地下水定期観測で、トリクロロエチレン及びフッ素の敷地外流出はないことを確認しています。



写真 8-6 揚水浄化装置

(4) 化学物質

豊川サイト、瑞穂サイト、三河サイト

PRTR 法による対象物質の取扱量は、すべて 1t 以下のため、届出の対象になっていません。

(5) 水質

豊川サイト、瑞穂サイト、三河サイト

雨水以外の排水は、公共下水道へ排水しており、河川等への排出はありません。

(6) 大気

各サイトでは、空調用に使用する冷温水発生機、温水ボイラーから排出される大気汚染物質の定期測定および施設の日常点検などを行い、大気汚染を防止しています。

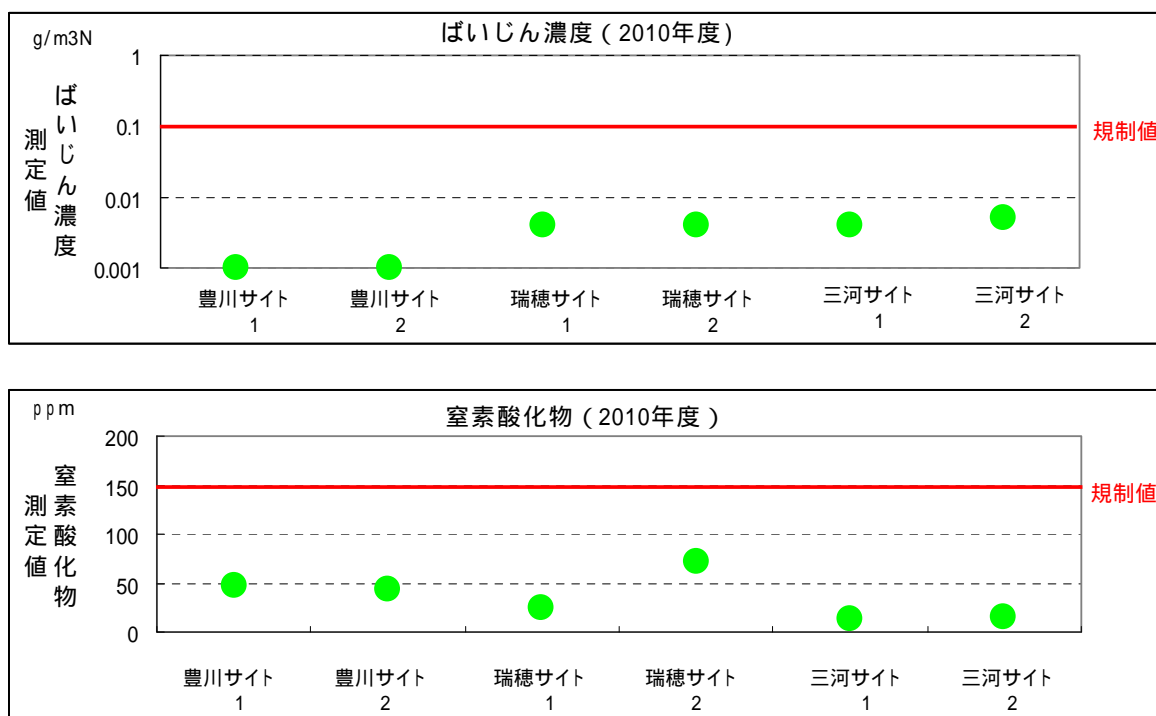


図 8-8 排出ガス測定結果

(7) 騒音・振動

各サイトでは、騒音測定・振動測定を1回/年おこなっています。また、日常の監視により規制基準の順守を確認しています。いずれも法基準、豊川市との公害防止協定値をクリアーしています。

<参考情報>

騒音レベル	相当する環境
60dB	忙しい事務室内
50dB	一般事務室
40dB	図書館

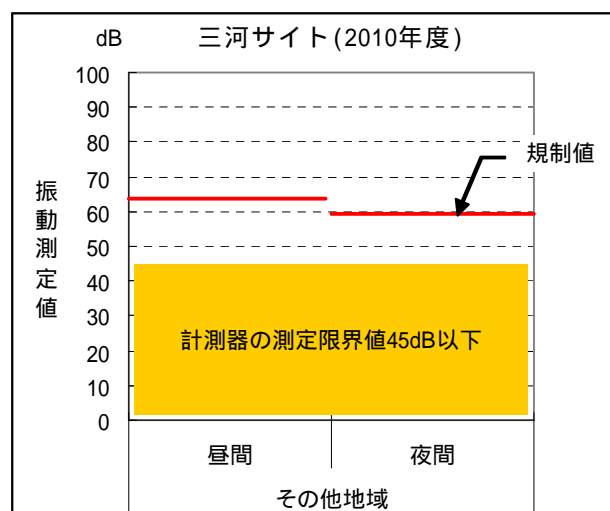
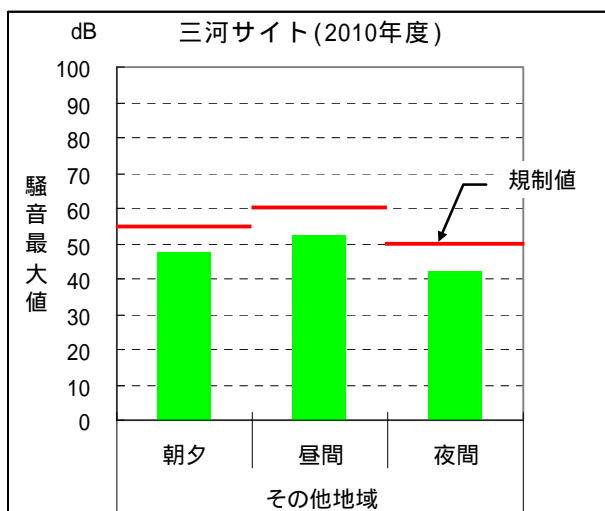
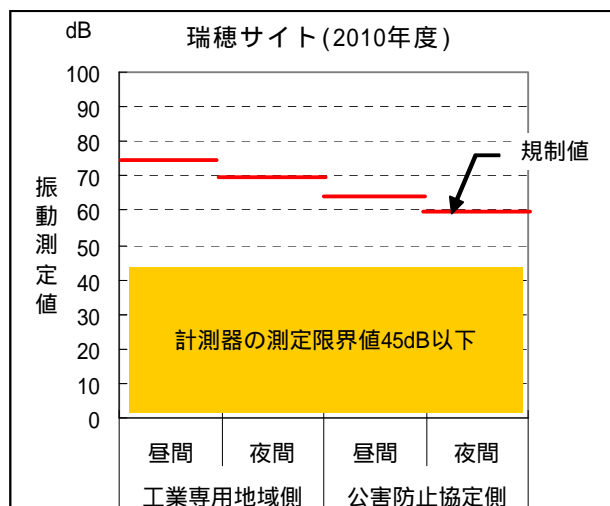
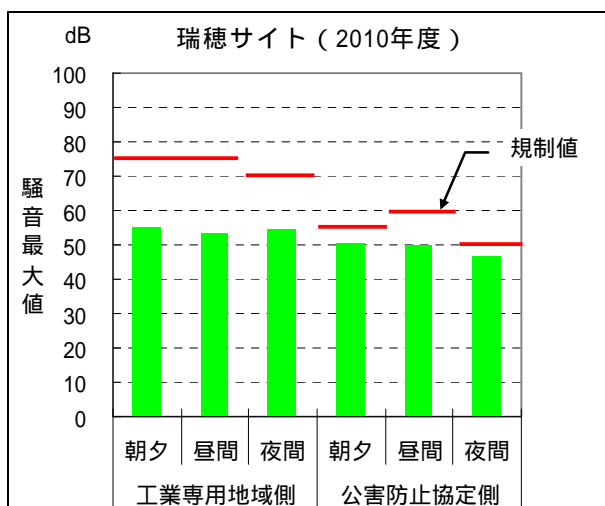
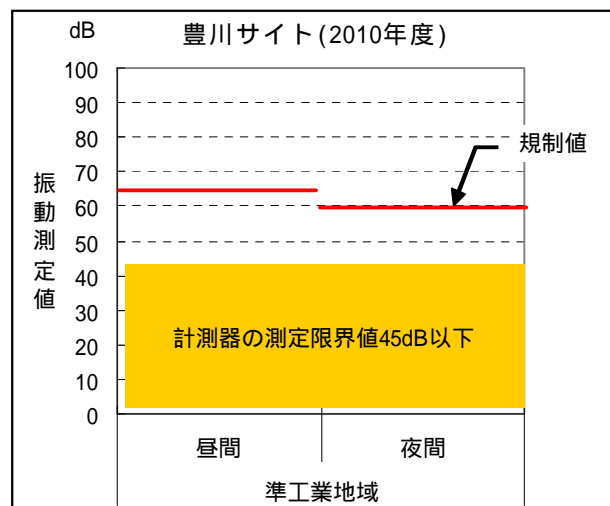
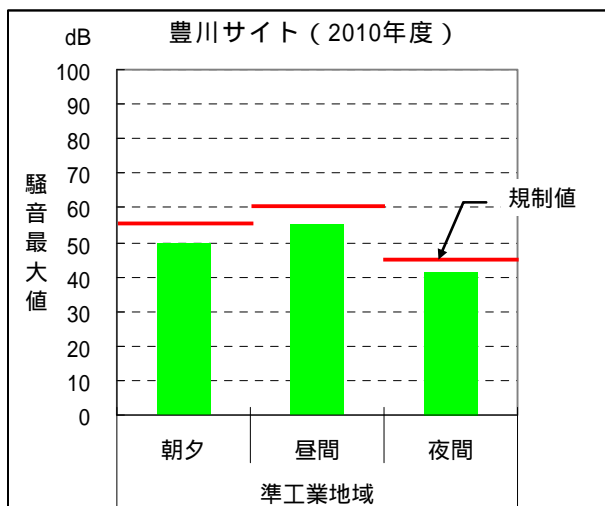


図 8-9 騒音測定結果

図 8-10 振動測定結果

9 . 安全・防災活動

(1) 安全衛生活動

労働安全衛生マネジメントシステムの運用

就業時災害の撲滅、安全衛生水準の向上を目指し、「労働安全衛生マネジメントシステム」を導入し、安全衛生活動を行っています。

2010 年度より各職場の運用状況について内部監査を行い、その結果を含めて 2011 年度の安全衛生目標に展開し、安全衛生水準の継続的な向上に取り組んでいます。

リスクアセスメントによるリスク低減活動

就業時災害を未然に防止するため、リスクアセスメントによりリスクを抽出・評価し、リスクの大きさに応じて優先度を設定し、順次対策に取り組んでいます。

対策事例 1

カーペット床の会議室において、常時使用する LAN 配線が床上を這わしてあり、会議室使用中に歩行者がつまずいて、転倒するリスクがあり、机のレイアウトを変えても繰り返し使用できるようにマジックテープ式のコード押さえを使用し、床に配線を固定しました。



写真9-1 対策前



写真9-2 対策後

K Y T の実践

危険を危険と気づく感受性向上のため、職場内に潜む危険や交通安全をテーマに K Y T (危険予知トレーニング) を定期的実施し、不安全行動による災害の防止に取り組んでいます。

安全風土づくり活動

人の行動による災害要因の撲滅を目指し、安全啓発資料の作成や安全啓発立ち番などのほかに、新規にヒューマンエラーに対する教育を追加し、従業員の安全意識の向上を図っています。

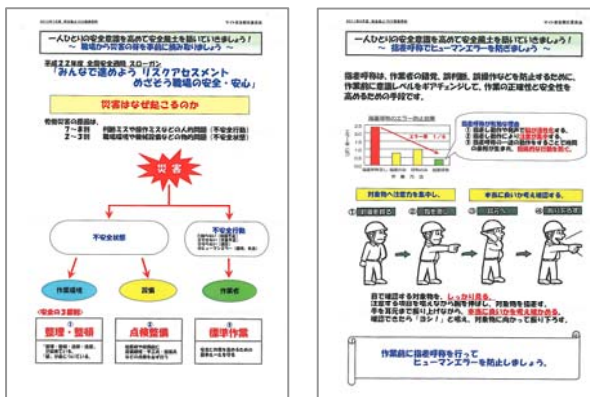


図9-1 安全啓発資料



写真9-3 安全啓発立ち番

トップ診断

サイトの経営トップによる職場巡視を定期的に行っています。

安全や環境面などの総合的な巡視を通して、課題を明確にし、アクションプランを策定して改善をすることで、より安全で快適な職場環境づくりを進めています。



写真9-4 トップ診断

救急救命講習

救急現場に居合わせた際、救急車が到着するまでの間、一刻も早い応急手当を行うことが重要です。

東海地区3サイトでは、2007年度にAEDを導入後、従業員が適切な応急手当の知識を持って対応ができるように、心肺蘇生法およびAEDの使用方法の講習会を定期的を実施しています。



写真9-5 救急救命講習

(2) 交通安全

2010年度 サイト交通安全スローガン

引き締めよう！あなたの心とシートベルト
点けましょう 自転車ライトは 命の光

交通安全県民運動期間に合わせて年4回、交通安全放送、交通安全啓発立番の実施、交通安全講習会の開催、交通安全スローガンの募集などにより、従業員の安全運転意識の向上を図っています。

また、自動車による通勤や社有車を運転する従業員は、年1回、講習会に受講することをルール化しています。



写真9-6 交通安全講習会



写真9-7 交通安全啓発立番

(3) 防災活動

東海地区各サイトの防災体制の維持と、従業員が有事の際、迅速な行動を身につけるため、以下の活動を実施しています。

防災組織の定期見直しおよび行動基準の見直し

火災および大規模地震を想定した訓練実施と不具合点の改善

防災教育

また、2010年度は、サイト内に設置してある消防用設備等で従業員が知っておいてほしいことや守ってもらうポイントを啓発資料にまとめ周知しました。



写真9-8 火災総合避難訓練



写真9-9 消火栓操法訓練

10 . 地域交流

(1) 街頭での交通安全啓発立番

豊川警察署および近隣企業と協力し、年4回の交通安全県民運動期間中に豊川市体育館前で交通安全啓発立番を行いました。



写真 10-1 啓発立番出発式

(2) 地域懇談会の実施

東海地区3サイトおよび大宝山寮近隣町内会を対象とした「地域懇談会」を年2回開催しています。日頃お世話になっている地域のみなさまとの連携を深めると共に、地元のみなさまの貴重なご意見や要望などをおうかがいし、今後の事業活動に反映させることを主旨としています。

地域懇談会も回を重ねるごとに出席される人数が増え、地域とのかかわりは高まって来ています。

2011年度上期の懇談会では、相互の自己紹介、コニカミノルタの会社紹介および東海地区3サイトの紹介、合わせて当面の「工事関係連絡」と「東海地区3サイトの環境活動」を中心にご説明しました。

地域のみなさまからは、三河サイト近隣の交通状況の危険性を懸念されるご意見や、ご要望などを頂戴しました。また、懇親会において当社の防災取組みの紹介を行うなど、和やかな雰囲気の中、地域のみなさまとの繋がりを深める大変有意義な地域懇談会となりました。



写真 10-2 地域懇談会



写真 10-3 地域懇談会

(3) 「夏至ライトダウン」「七夕ライトダウン」キャンペーンの実施

環境問題の大切さを国民全体で再確認していくための「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」夏至ライトダウン、七夕ライトダウンに参加しました。2晩のライトダウンですが、地球温暖化防止活動への協力ができました。東海3サイトともに真っ暗になりました。

削減効果

省電力量 : 2,246 kWh (1世帯あたりの電力使用量の7.4ヶ月分に相当します)
CO₂削減量 : 0.86 t-CO₂ (ライトダウン1回あたり昨年比1.26倍)



写真 10-4 三河サイトの通常日の状況



写真 10-5 夏至ライトダウン



写真 10-6 七夕ライトダウン

(4) 豊川市清掃の日への参画

豊川サイト・瑞穂サイト・三河サイト・豊川物流センター・御津物流センターでは、「豊川市清掃の日」(6月・10月の年2回実施)に参加して、サイト周辺道路・水路・通勤路・公園・佐奈川遊歩道などに散乱している空き缶、空き瓶、ごみなどの回収を行っております。



(佐奈川遊歩道)



写真 10-7 清掃活動風景

(5) 中学生社会体験学習の受入れ

今年も、愛知県の取り組みである「あいち・出会いと体験の道場」として豊川市立南部中学校2年生男子生徒の社会体験学習の受入れを行いました。豊川および瑞穂のサイト見学を始め、金型部品の磨きと組立、板金加工、恒温槽体験、廃棄機械分解分別作業、売店販売実習、プラネタ観賞など、3日間で13メニューの盛り沢山の体験をしてもらいました。短い期間ではありましたが、体験学習のねらいである「働くことの喜びや厳しさを味わう」事ができたかと思えます。



写真 10-8 社会体験学習

(6) エコキャップ運動の推進

コニカミノルタは国内の全サイトでエコキャップ運動を展開しております。東海地区3サイトにおいても、従業員の理解、協力のもとに、家庭や職場で排出されるペットボトルのキャップを、各サイトに設置した収集ボックスに回収し世界の子供たちにワクチンを贈っています。



図 10-9 エコキャップ運動ポスター

写真 10-10 収集ボックス

1 1 . 用語の解説

循環型社会

製品や排出物を循環資源として再利用する仕組みを持った社会のことで、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される。これからの目指すべき社会の姿。

生物多様性

多くの種類の生き物がいて、それらがつながり支えあって生態系の豊かさやバランスが保たれること、また多様な遺伝子が過去から連綿とつながっていることをいう。CO₂ 排出量の削減を図っている。

地球温暖化

地球全体の気温が上がり暖くなること。気候変動により地球全体の環境に深刻な影響を及ぼすことが懸念されている。人為的な影響により大気中の温室効果ガスの濃度が上昇していることが原因とされることから、その削減による防止が必要とされている。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、その他、政令で定める廃棄物のこと。排出事業者が処理責任を負い、許可を受けた産業廃棄物処理事業者へ処理を委託している。

フッ素

フッ素の化合物は一般的に極めて安定しており、長時間変質しないという特徴を持つ。環境中で分解されにくく、いつまでも残存する。

騒音規制

騒音を防止するために、法律、条例及び協定で上限を定めている。東海地区3サイトは法律、愛知県条例及び豊川市との協定に定める規制基準に対応している。

救急ホットステーション

市民が不慮の事故や急病に見舞われた際、救急車が到着するまで応急手当などを行う『街の救急隊』として、豊川市消防本部が事業場などを登録する制度。

環境負荷

環境に与えるマイナスの影響のこと。廃棄物の排出、エネルギーの消費等、事業活動に伴ない発生するすべての影響を対象にする。

VOC (Volatile Organic Compounds)

常温常圧で揮発性を有し、大気中で気体状態となる有機化合物の総称。大気汚染物質の一つ。

CO₂ 削減

東海地区3サイトではエネルギー源として、主に電力と天然ガスを使用しており、これらの消費量を抑える省エネ活動を通して、CO₂ 削減を図っている。

一般廃棄物

産業廃棄物以外の廃棄物をいう。事業活動に伴わない、例えば紙くずなどが該当する。市町村の許可を受けた一般廃棄物処理業者に処理を委託している。

PRTR : Pollutant Release and Transfer Register

(化学物質排出移動量届出制度)

人の健康や生態系に有害なおそれがある化学物質について、年間取扱量 1t 以上の排出量及び廃棄物の移動量を事業者自ら把握し、行政庁に届出する制度。

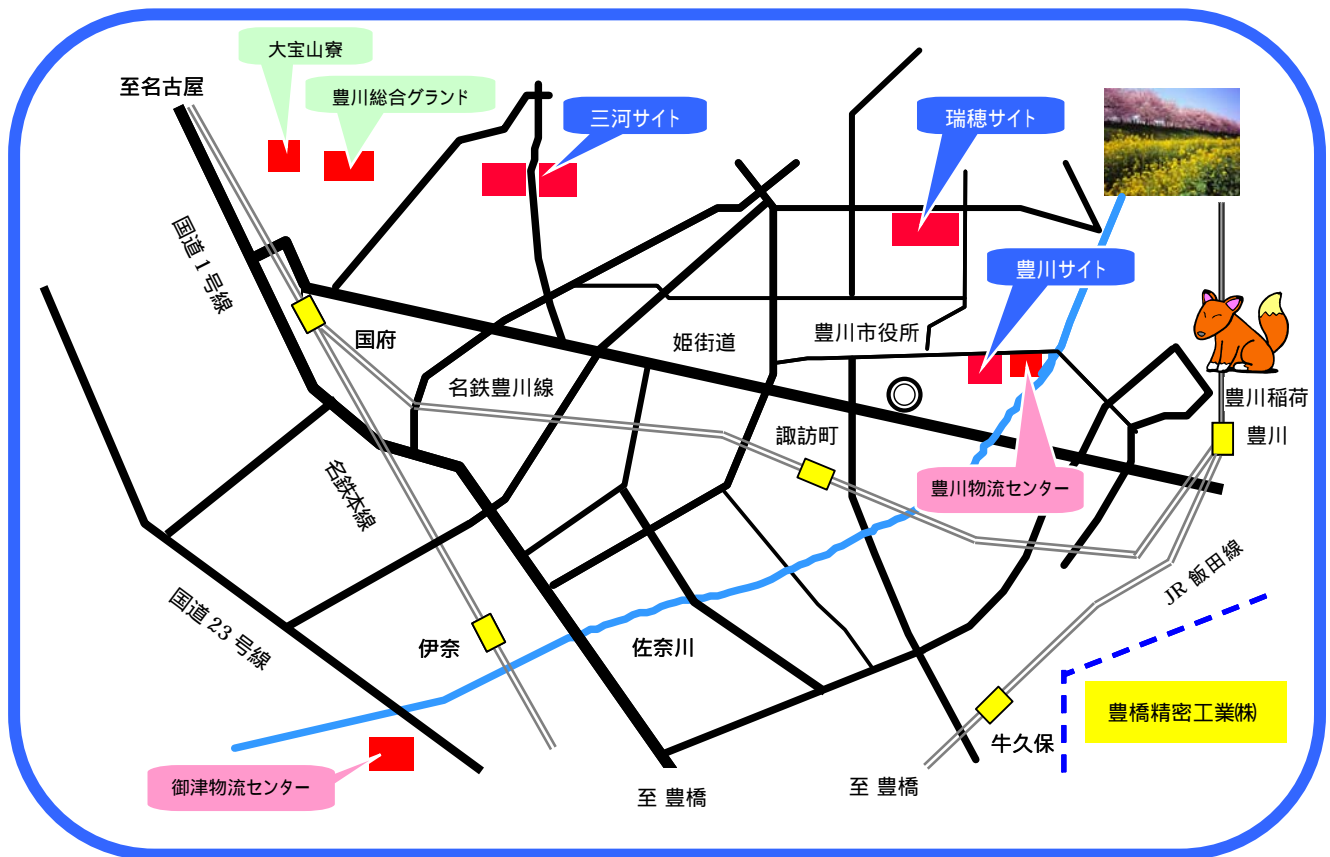
リスクアセスメント

潜在する危険、危険事象を事前に見つけ出し、リスクを評価し、リスクの大きいものから優先して低減する手法。

A E D (自動体外式除細動器)

突然、心臓の筋肉が痙攣状態となり、小刻みに震えて収縮・拡張を行わなくなって血液を流せなくなることがある。これを「心室細動」とよぶ。そのとき心臓に電気ショックを与えて、小刻みな震えを止めて正常なリズムに戻すための器械。

東海地区サイトロケーション



救急ホットステーション登録表示

豊川サイト、瑞穂サイト、三河サイトにはAEDを設置し、
「救急ホットステーション」にも登録しています。



KONICA MINOLTA

会社名 : コニカミノルタエンジニアリング株式会社
所在地 : 〒442-8503 愛知県豊川市穂ノ原 3-22-1
連絡先 TEL : 0533-84-6121 施設管理本部 東海施設部 東海環境課
FAX : 0533-84-6164
コニカミノルタ環境ホームページ:
<http://konicaminolta.jp/pr/eco>
発行年月 : 2011年12月